第７号

坂の上の暮らし

（2022年度県民ボランティア振興基金事業）

2022年12月16日

させぼ山手研究会(Sasebo Yamanote Workshop)
Email:mitsuguhimaki72@gmail.com

電話090（4205）7471
（編集・責任　檜槙　貢　理事長）

イベント・コミュニティー

・12月1日（木）と12月8日（木）に白南風町36番6号の瀬尾あや子氏所有空き地において、住民参加イベントを行いました。12月1日のイベントは地域の人たちが秋冬の花や球根を大型プランター20個に植栽し、地域社会の一員としての思いを共有することでした。12月8日のイベントは、その空き地が放置される「土地」ではなく、地域のみんなでつくり上げる広場の意味を込めて「みんなの広場（整備中）」という看板を掲げました。この空き地周辺にイベント・コミュニティーがあることを実感しています。
・2回のイベントは「空き地」がそこに暮す人たちのものとして、使うコミュニティの足掛かりを与えてくれました。

「八幡製鉄所のあったまちを訪ねる」

・12月17日、理事メンバーは北九州市八幡東区枝光地域を訪ねます。その理由は２つ。１つはこの地域が明治時代の富国強兵のシンボルである官営八幡製鉄所を核につくられたまちだということです。国の力でまちが拓かれたのは海軍都市佐世保と同じことだと思っています。山澄地区と同じ斜面地であって、近年の急速な人口減少も共通しています。
　もう１つはこの地域が斜面地再生の先進地だということです。20年以上の期間をかけて、地区（地区自治協議会）、大学（九大）、住民の連携で斜面地再生を進められていることです。その成果とヒントを白南風町の坂の上の暮らしに学ぶことがメンバー訪問のねらいです。

「道をつくろう」

・普通車が入らない斜面地に住む人たちは、道路の拡幅等についてこれまでご近所への声かけ、町内会や市役所等へのお願いをしてきたようです。現実はそれをあきらめることを選ぶことになりました。あげくの果ては、あらたに車道に横付けできる土地を求めて流出していきました。
・させぼ山手研究会に参加する人たちが徐々に増えています。その人たちから、道路側溝のふたかけ、電柱の付け替え等の提案が出ています。また、譲り合いや扶け合いの精神が、私たちが使う道（みち）においてもあってもいいという意見も出て来るようになりました。道（みち）をつくる工夫を始めましょう。

斜面地低未利用地再生事業

　ブルーシートを突き破って、心根の悪い石がとびだし、石垣が崩落し始めている。旧指山博義邸の上にある放置宅地のことである。その一方で、高齢者が道端に茂る草木を一人で刈り取る姿に出会う。そこに課題と可能性を見ている。

防災シビックプライド育成事業

「近助コミュニティ」としての市民防災のあり方を考えるしくみづくりを学ぶことを進めている。その最初の試みとして、市民防災のあり方を取り込んだDayキャンプを行うことであって、現在計画中。

斜面モビリティ事業

いつでも、どこでも、誰にでも斜面地利用のために使って欲しい。そんな思いで峰坂町に住む松尾俊理事は斜面地移動機器「ノボロ」を自家用車内に載せている。この機器は農業用のものであって、道路上での利用には当局による許可がいるが、道の形状を選ばない優れもの。